

がんばれ まちの 消防団 FIRE VOLUNTEER

火災発生時や災害発生時にわたしたちを守ってくれる町の消防団。安心安全なまちづくり日々尽力している南部町消防団をご紹介します。

消防団とは

消防団の歴史は古く、江戸時代、八代将軍吉宗が、町火消「いろは四八組」を設置させたことが今日の消防団の前身であるといわれています。

消防団は、本業を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために志願してくださっている人たちが結成されています。大切なまち、人、財産を守るため、火災発生時における消火活動、地震や台風といった災害発生時における救助・救出活動のほか、普段は住民への啓発・広報活動・防火指導などを行っています。

災害が発生すると、必要不可欠なものが地域住民同士の助け合いです。そうした中で、日頃から地域に密着した活動をしている消防団は、大きな力を発揮します。

南部町消防団を知ろう！

消防団の概要

南部町消防団は役場に本部を置き、西伯地区に4つの分団、会見地区に3つの分団、役場職員からなる本部班を置いています。

南部町消防団は団員数が現在146人です。(うち女性団員1人) 消防団員の平均年齢は40・97歳です。(平成21年4月1日現在) 団長を中心とし、副団長が2人、

各分団長・副分団長が1名ずつ計14人おり、その下に団員たちがいます。

また、会見地区には自衛消防団の組織が16あります。

本業をもちながら

団員のほとんどが、会社員、自営業、公務員など、ほかに本業を持ちながら消防団としての活動を行っています。ひとたび火災が起きれば、夜中でも出勤し、命をかけて消火活動を行うのです。

訓練

いざというときのために、消防団員たちは訓練を行っています。消防操法とよばれる、消防訓練における基本的な器具操作・動作の方式を学び、毎年夏にはその技やスピードを競う操法大会が行われます。今年7月5日に鳥取県消防学校(米子市流通町)で鳥取県西部地区消防ポンプ操法大会が行われ、ポンプ車の部に会見第三分